



# 野外活動ではマダニに注意！ 重症熱性血小板減少症候群

令和4年5月18日  
富山県感染症情報センター  
(富山県衛生研究所内)  
(0766-56-5431 直通)

## 感染症発生動向速報

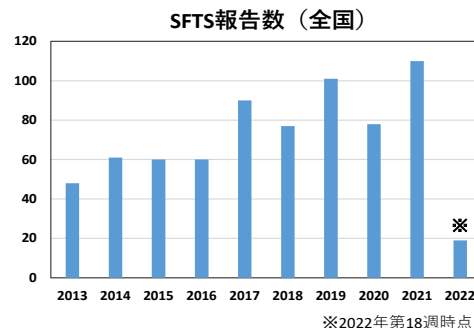
(令和4年第19週分・5月9日～5月15日)

### 《インフォメーション》

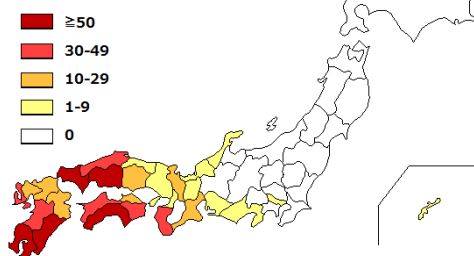
#### ●重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

重症熱性血小板減少症候群 (Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome; 以下 SFTS) は、SFTS ウイルスが原因のマダニ媒介性人獣共通感染症です。近年、人ではマダニからの咬傷だけでなく SFTS を発症した犬や猫などの伴侶動物を介した感染事例も報告されています。人に感染すると、5～14日の潜伏期間の後、発熱や消化器症状、神経症状が認められ、血液検査では、血小板減少や白血球減少が認められます。また、患者の約3割が死に至ります。

2013年3月に感染症法4類全数把握疾患に指定されて以降、患者報告数は増加傾向が続いています(上図)。患者は、九州、四国、中国地方などの西日本を中心に報告されています(下図)。また、患者報告地域は年々東へ広がり、2015年には、隣の石川県から2例の報告がありました。富山県内では、未だ人への感染は認められておりません。しかしながら、今月、飼育犬の感染事例が初めて報告されました(<https://www.pref.toyama.jp/1207/20210319.html>)。このことから、県内にも SFTS ウイルスを保有するマダニが存在していると考えられます。SFTS の予防には、マダニに咬まれないことが重要です。患者の多くは4～10月にかけて報告されています。これからの季節は特に、野外で活動する際には、以下のことに注意しましょう。



#### 都道府県別 SFTS 届出状況 (2013～2022年第18週)



- ① 肌が露出しないように、長袖、長ズボン、手袋、長靴等を着用しましょう。
- ② マダニの付着が確認しやすい淡色系の服装にしましょう。
- ③ 虫よけスプレー(マダニ忌避剤)を使用しましょう。
- ④ 地面に直接寝ころんだり、むやみにやぶなどに分け入らないようにしましょう。
- ⑤ 吸着しているダニを無理に引き抜くと、ダニの一部が皮膚内に残ることがあります。なるべく医療機関で取ってもらいましょう。
- ⑥ 発熱等の症状が認められたら、早めに医療機関を受診し、野外等で活動したことを伝えましょう。

### 《全数報告の感染症》

新型インフルエンザ等感染症 新型コロナウイルス感染症 1,616件(暫定値)  
三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 4件(①10歳未満、男性 ②③共に10歳代、女性  
④40歳代、女性 ①～④全て、O26、VT1)  
四類感染症 レジオネラ症 2件(①60歳代 ②70歳代 ①②共に男性、肺炎型)  
五類感染症 アメーバ赤痢 1件(50歳代、男性、腸管アメーバ症)  
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件(70歳代、男性、A群)  
侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件(10歳未満、女性)

### 《定点報告の感染症》

今週の県内上位6疾患		定点あたりの数	
順位	疾病名	今週(増減)	先週
1位	感染性胃腸炎	6.83(↑)	4.31
2位	手足口病	0.48(↑)	0.21
3位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.41(↑)	0.14
4位	突発性発しん	0.24(↑)	0.21
5位	咽頭結膜熱	0.14(↑)	0.10
	流行性角結膜炎	0.14(→)	0.14

○感染症発生動向調査報告状況（令和4年第19週 令和4年5月9日～令和4年5月15日）

分類	疾患	今週報告分（第19週）							累積報告数（令和4年第1週（1月3日）～）						
		新川	中部	高岡	砺波	富山市 <sup>※1</sup>	その他 <sup>※2</sup>	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市 <sup>※1</sup>	その他 <sup>※2</sup>	計
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	206	119	514	212	557 <sup>※1</sup>	8	1,616	2,701	2,424	6,888	2,652	15,072 <sup>※1</sup>	157	29,894
二類感染症	結核								1	2	15	6	15		39
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症			4				4		1	4		1		6
四類感染症	つつが虫病									1					1
	レジオネラ症			1		1		2	3		4	1	7		15
五類感染症	アメーバ赤痢					1		1			1		2		3
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症										1	1	2		4
	急性脳炎										2				2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					1		1	2		4		5		11
	侵襲性インフルエンザ菌感染症			1				1			1		1		2
	侵襲性肺炎球菌感染症										1		3		4
	水痘（入院例）												1		1
	梅毒								2		4	2	13		21
	播種性クリプトコックス症												2		2
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症												1		1
定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ										1				1
	RSウイルス感染症			2				2	28	18	230	56	281		613
				0.25				0.07							
	咽頭結膜熱	1		3				4	26	14	113	7	35		195
		0.25		0.38				0.14							
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1		9		2		12	22	9	81	21	137		270
		0.25		1.13		0.20		0.41							
	感染性胃腸炎	14	22	67	24	71		198	352	430	1,036	395	1,235		3,448
		3.50	7.33	8.38	6.00	7.10		6.83							
	水痘			2				2		5	21	1	16		43
				0.25				0.07							
	手足口病			14				14	1	8	66	3	47		125
				1.75				0.48							
	伝染性紅斑								1		4	1	1		7
	突発性発しん	1		1	1	4		7	11	9	54	15	41		130
	0.25		0.13	0.25	0.40		0.24								
ヘルパンギーナ								39	7	22	1	6		75	
流行性耳下腺炎			1				1	1		4	1			6	
			0.13				0.03								
流行性角結膜炎			1				1	7	2	2				11	
			0.50				0.14								
細菌性髄膜炎											1	1		2	
マイコプラズマ肺炎											1			1	
インフルエンザによる入院患者（※3）											3	1		4	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 県報道資料の判明日調査中は、公表前日を判明日とした暫定値です。 ※2 その他は県外、居住地非公表分です。

※3 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和3年第36週(9月6日)～の集計です。

○感染症発生動向調査報告状況（令和4年4月分）

		4月報告分					累積報告数						
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
五類感染症 (定点把握)	性器クラミジア感染症			1		5	6			9		23	32
				0.33		1.25	0.60						
	性器ヘルペスウイルス感染症			1		4	5			2	1	18	21
				0.33		1.00	0.50						
月報対象疾患 (下段は定点当たりの患者数を示す)	尖圭コンジローマ										1	4	5
	淋菌感染症					2	2					7	7
						0.50	0.20						
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2		3	3	12	20	8	2	7	12	43	72
		2.00		3.00	3.00	12.00	4.00						
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1				1	2	2		1		3	6
	1.00				1.00	0.40							

本月報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。